

歴史は形を変えて繰り返す！コロナ状況下に学ぶ企業経営

「昭和の名経営者」 （任天堂「中興の祖」山内溥）の 経営の真髓に学ぶ



大野実雄
中小企業診断士・
社会保険労務士・販売士



●プロフィール
（オオノ シツオ）
メーカー、経営コンサルティング
ファームを経てオオノ経営労務事
務所開設。「変化には変化でしか
対応できない」を企業支援の基本
としている。著書に「売れるよう
に売れば必ず売れる」「働き方・生
き方こころの軸」「勝つ企業」等
がある。

1 「コロナ状況下」で先が見えない時代だからこそ昭和を代表する経営者に学ぶ

日本を代表する企業を育てた名経営者は、なにを考え、どう行動（考働）してきたのか。先が不透明なコロナ状況下だから、任天堂を電子ゲームによって世界的な企業に押し上げた山内溥の経営の真髓（顧客は常に新しいものを求める）に学ぶ。

2 「愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ」（ドイツの名宰相オットー・ビスマルク）

独りよがりな愚か者は学ぶことなく自分の経験、知識だけで考え、行動し、その結果失敗して、初めて己の間違いを知る。しかし、賢明な者

は歴史に刻まれた物事の因果や、先人の知恵、知識から言動の是非を理解して行動する。
先人たちは多くの失敗と成功を繰り返し、その経験の中から歴史という形で我々後世の者に貴重な経験談を残してくれている。また、ピーター・ドラッカーは、「未来は過去の延長線上にある」と言っている。今ある現在、そして未来は全て、過去の出来事が基盤となつて表れた現象ではない。すなわち、未来を知りたければ過去を学ぶ、歴史を学ぶことが近道だと言うことである。

3 山内溥（やまうちひろし） 1927（昭和2）年 2013（平成25）年

① 1927年、京都市に生まれる。花札・トランプ製造会社の合名会社山内任天堂の販売子会社であった株式会社丸福（丸福かるた販売などを経て、現在の任天堂）の設立時に取締役就任。跡継ぎとして育てられていた溥だったが、その2年後、1949年に祖父で二代目の山内積良が病気で倒れ、急遽祖父の後を継がざるを得なくなり、22歳で「株式会社丸福かるた販売」の代表取締役社長に就任。

② 1953年には日本初のプラスチック製トランプを開発、1959年にはデイズニートランプを発売するなどし、任天堂の業績をかつてないほど上げた。特にデイズニートラン

プに関しては、「デイズニートランプを絵柄に使う」「遊び方の簡単な説明書を同梱する」という全く新しい手法により、それ以前は博打の道具としてしか認識されていなかったトランプを子供向け・家庭の団

結のための玩具として再定義し、全く新しい層を新たに取り込んだ。任天堂のトランプは爆発的に売れ、1960年代前半には一躍業界トップに躍り出る。

③ トランプブームが一段落付いた1964年に任天堂は一転倒産危機に直面することになる。苦境にあえいでいる最中の1965年に入社した横井軍平（後に開発第一部長が、暇つぶしに作って遊んでいた道具を、ウルトラハンドとして1966年に商品化させたところ、これがまた大ヒットを記録した。それ以降、電気や電子の技術を使った目新しい玩具でヒットを出した。

これ以降おもちゃ屋では、「光る・動く・音が出る」のおもちゃが売れるとなった。デパートのおもちゃ売り場が大きな得意先となり、1970年の光線銃SPがヒットし売上げも大きく伸びた。

④ 1980年には携帯型のゲーム機である「ゲーム&ウォッチ」がまたま

た大ヒットとなる売上げを記録した。さらにその利益を使って開発した「ファミリーコンピュータ」（1983年）の発売・大ヒットによって娯楽産業における任天堂の地位を確立した。その後、家庭用テレビゲームに専念するように体制も変えて行った。⑤ 顧客は「常に新しいものを求める」というのが、これまで山内が送ってきた経営者人生で得た持論であり、これを曲げることは一切なかった。

4 山内溥のエピソード・名言 （言葉には魂が宿る）

① 人事を尽くして天命を待つというが、失敗するとその途端に、ああすればよかった、こうすればよかったと、次々と反省が生まれるものです。だから、どんなに人事を尽くしたつもりでも、人間は所詮は天命を待つ心境になつてなれないのです。
② 娯楽を売る業界は、老舗だから安心なんてものはなりません。常に新しいものを出して行かないと生き残れない世界なんです。
③ 必需品なら二番手に売り出しても安ければ売れますが、娯楽品はそうはいきません。二番煎じでは安くても売れないのです。

④ プームに乗ったと思ったら、それ

はもう売れなくなると受け止めるべき。

⑤ 他社と無闇に競合しない（ケンカをしない）。
⑥ 漫然と同じことを続ければ客は飽きる。

⑦ ゲームは娯楽であるということですから。娯楽が目指すのは「役に立つ」ではなく、「楽しい」とか「面白い」なんです。

⑧ 「他社の類似品は出すな」「面白くと思うものをつくれ！」

5 山内溥は現状の困窮（コロナ禍）をどう言うか…推測

① 将来の結果（コロナ禍対応）は誰にもわからない。ただ正しいと確信する道を歩んでいくだけです。
② （コロナ禍対応）には非常識の発想が必要なんです。
③ （当店や当社のコロナ対策）は、ほかと違うからこそ価値がある。

歴史は、今を経営する者がより良い事業を展開するために、先人が遺してくれた経営の鑑（かたみ）でもあります。

* 史実は諸説あります。本文とは異なる説もありますのでご了承ください。
* イラストはイメージです。
* 参考文献：昭和時代年表（岩波ジュニア新書）、昭和時代（朝日新聞出版）、昭和の名経営者たち（日経BP社）、任天堂、驚きを生む方程式（日本経済新聞出版）、任天堂社長／山内溥（週刊ダイヤモンド）